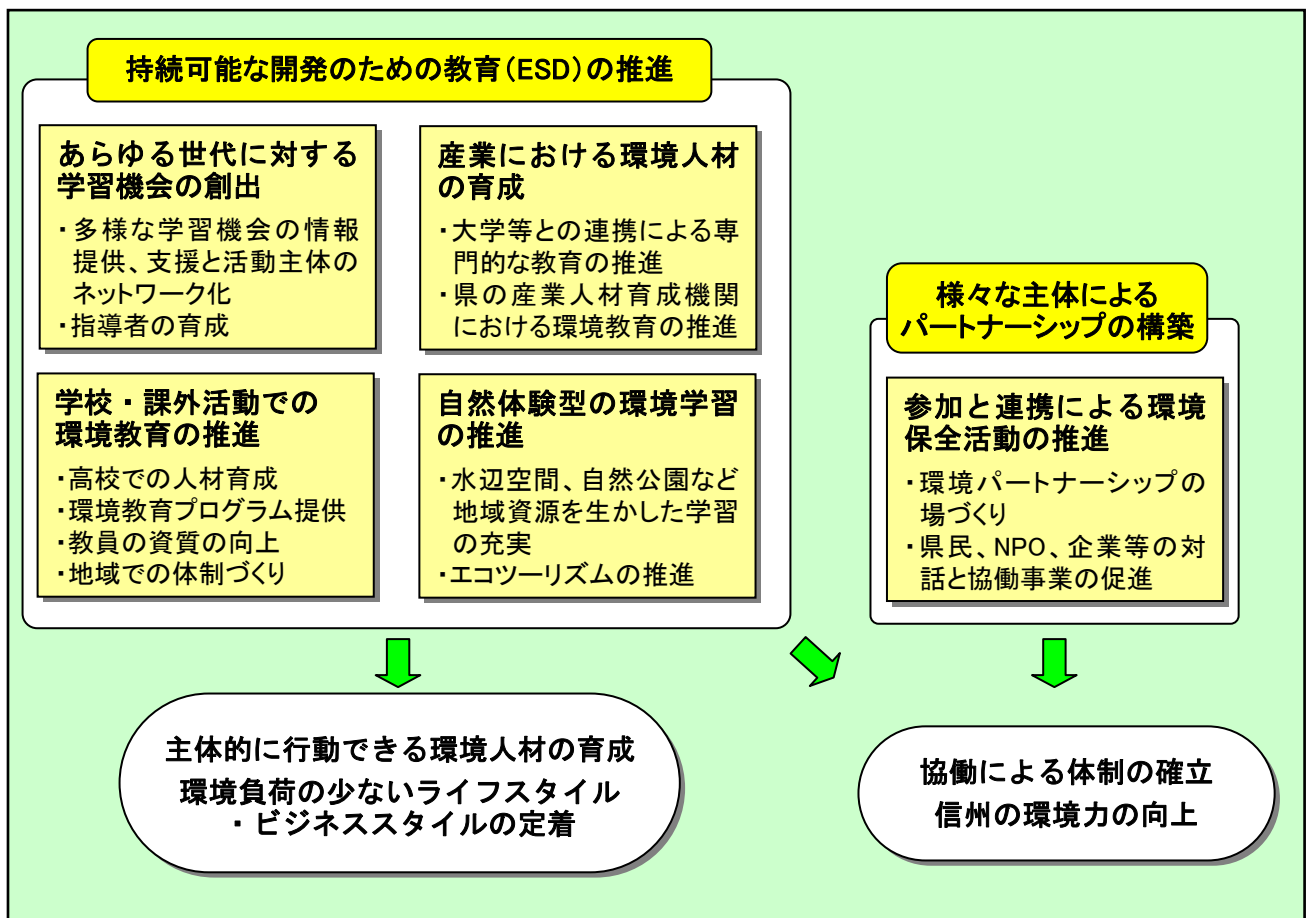


行動する環境人材育成プロジェクト

このテーマのねらい

すべての県民、事業者が環境についての理解と認識を深め、将来にわたって環境の保全のために自覚ある行動を取れるよう、あらゆる世代に環境を学ぶ機会を提供し、正しい知識を基に、産業、地域社会など様々な分野において持続可能な社会づくりに取り組む人材の育成を進めていきます。また、こうした人材を中心に、あらゆる主体の協働による環境保全活動の推進体制の構築を図っていきます。

長期的な取組のイメージ



長期的な取組の方向性 (計画期間における施策の展開 p75~78)

あらゆる世代に対する学習機会の創出

- 県として環境学習の機会の提供に努めるとともに、市町村のほか、NPO、企業など様々な主体が実施している環境学習に関する情報提供を行い、優れた取組を支援します。また、環境教育を実施している主体の相互の連携とネットワーク化を推進し、あらゆる世代に対する多様な学習機会の創出を促進します。
- 環境保全に関する専門的知識や、豊富な経験を有する地域の環境教育指導者の育成を進めます。

学校・課外活動での環境教育の推進

- ・ 県立高校の環境関連学科において、環境問題に対応できる人材の育成を行います。
- ・ 県内企業と連携して、子ども達が家庭で省エネルギー等を実践する環境教育プログラムを提供するなど、質の高い環境教育プログラムの普及を推進します。
- ・ 学習指導要領等における環境教育の位置づけを踏まえつつ、教員に対する環境教育研修の充実を図ります。
- ・ 環境教育に取り組む教員への教材や情報の提供、地域における環境教育の指導者等の派遣など、学校における環境教育を支える地域での体制づくりを進めます。

産業における環境人材の育成

- ・ 大学における中小企業の経営者、技術者等を対象とした専門的な環境人材育成プログラムの開発の取組に協力し、中小企業のグリーン化を推進する人材の育成を推進します。
- ・ 工科短期大学校、技術専門校、農業大学校、林業大学校等の県の産業人材育成機関において、それぞれの産業分野における環境負荷の削減や、持続可能な社会づくりに向けた教育を進めます。

自然体験型の環境学習の推進

- ・ 身近な水辺空間や自然公園における学習機会の提供、農山村における子ども達の交流の実施、都市部の住民の農業・林業体験など、地域資源を生かした環境学習を推進します。
- ・ エコツーリズムや森林セラピーなど環境学習と結びついた観光の振興を図り、信州の豊かな自然環境をフィールドとする多様な環境学習の場を提供します。

参加と連携による環境保全活動の推進

- ・ 「信州豊かな環境づくり県民会議」や、「中部環境パートナーシップオフィス」と連携し、県民・NPO・企業・研究者・行政など多様な主体・関係者が協働するパートナーシップの場づくりを進めます。
- ・ 県民、NPO、企業等に環境に関する対話の機会を提供し、それぞれの活動に対するニーズや提供できる資源のマッチングを行い、協働事業の実践につなげていきます。

【用語解説】

*カーボン・オフセット

自分たちの行動によって生じた温室効果ガス排出量について、他の場所で行われた温室効果ガスの排出削減・吸収量(クレジット)を購入したり、排出量削減や吸収量を増やすプロジェクトなどを実施することによって「埋め合わせ(オフセット)」すること。

*カーボンフットプリント

一つの商品における原料の採掘や栽培、製造、加工、包装、輸送及び、購買・消費されたあとの廃棄に至るまでの、それぞれの段階で排出された温室効果ガスである二酸化炭素などの総合計を重量で表し、商品に表示すること。

*サービサイジング

製品として販売するのではなく、それに代えてサービス化して提供すること。廃棄物の発生抑制、環境負荷の低減に寄与し得るものと考えられている。業務用の複写機等で広く行われている維持管理を含む総合リースサービスなどが典型的な例であるが、蛍光灯を販売せず照明機能のみを提供し、使用済み蛍光灯の回収・適正処理まで行うサービスなど、様々な事例が見られるようになっている。

*デポジット

飲み物のカンやびんの容器本来の価格に、容器の預かり金を上乗せして販売し、使用後に容器を所定の場所に返却すると預かり金が消費者に払い戻される制度。ごみの散乱防止や、廃棄物の発生抑制に有効とされている。

*生態系ネットワーク

保全すべき自然環境や優れた自然条件を有している地域を核として、これらを有機的につなぐことにより形成された地域のネットワーク。生物の生息・生育地域をつないで個体群の交流を促進し、種や遺伝的な多様性を保全することを目的とする。

